

# 農業の新しい技術

No.576 (平成19年7月)  
分類コード 01 - 14  
熊本県農林水産部

## 褐毛和種種雄牛「<sup>みつしげほし</sup>光重星」の選抜

農業研究センター畜産研究所生産基礎技術研究室  
担当者：北 伸祐

### 研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、後代牛による産肉能力間接検定を実施し、その肥育及び枝肉成績により優秀な種雄牛を選抜する。

### 研究の成果

1. 産肉能力がバランス良く優れた褐毛和種種雄牛「光重星」を選抜した。

#### 血統

父 第三光重(繁殖29)

母 ぎんぼし(産肉296)

祖父 光重 E T (育高 1)

祖母 くさふく(高3414)

祖父 銀 星(1級530)

祖母 ふくみつ(1級74015)

登録番号：繁殖 1 1 2

生年月日：平成 1 2 年 1 0 月 1 日

生産地：阿蘇郡南阿蘇村

2. 間接検定成績および遺伝的評価値

1日当たり増体量(DG)は1.06kgで、基幹種雄牛の間接検定成績平均値1.05kg(以下基幹種雄牛平均)と同程度の成績であった。

枝肉重量は、438.3kgと基幹種雄牛平均427.7kgより高く、また遺伝的評価値\*(EPD、以下同様とする)も+20.2kg(評価281頭中8位)と高かった。

脂肪交雑は2.1で、基幹種雄牛平均に比べ低かったが、EPDは+1.01(評価種雄牛279頭中7位)と高く、優れた能力を有すると推定される。

ロース芯面積は45.0cm<sup>2</sup>で、基幹種雄牛平均49.6cm<sup>2</sup>より小さかったが、EPDは+1.3cm<sup>2</sup>と高かった。

\* 遺伝的評価値(EPD)は、産子のフィールド成績を用いて、後代が父牛の遺伝的影響でどれだけ改良されるかを予測した数値。



光 重 星

表 1 産肉能力間接検定成績（発育成績および飼料摂取量）

月 齡	体 高	体 重	1 日当	1 kg 増体当
開始時 終了時	開始時 終了時	開始時 終了時	り増体量	り T D N D C P
(月)	(cm)	(kg)	(kg)	(kg)
11.0 21.8	123.8 142.0	363.9 711.9	1.06	6.10 0.81

表 2 産肉能力間接検定成績（枝肉成績）

枝肉重量	脂肪交雑	ロース	ばらの厚さ	皮下脂肪
(kg)		芯面積	(cm)	の厚さ
		(cm <sup>2</sup> )		(cm)
438.3	2.13	45.0	6.8	2.6
(427.7)	(2.6)	(49.6)	(6.9)	(2.6)

\* 表中下段( )内の数値は現有基幹種雄牛 1 1 頭の平均値

表 3 フィールド成績から推定した遺伝的評価値 (E P D)

種雄牛名	後代牛数	1 日当	枝肉重量	B M S N O .	ロース	ばらの	皮下脂肪
		増体量		(脂肪交雑)	芯面積	厚さ	の厚さ
光重星	3 6	0.060	20.2	1.01	1.3	0.27	0.25
順 位		6	8	7	55	25	228
評価種雄牛数		281	281	279	270	270	270